

事業名 ばお：防災体験フェスタ（報告）

目的	町田市子どもマスタープランに基づき ・コミュニケーション能力をのばす ・体験活動ができる場の充実 ・地域連携・人材育成の推進 ・子どもの安全・安心の確保		
期待される効果	個人の防災意識を高めることで、地域の防災力を高める		
主な対象	どなたでも	参加者数	幼32名、小53名、中～13名、大人52名、ボラ51名 合計201名
日時	2025年2月11日(火・祝) 午前11時～午後3時		
関係団体	・堺おやじ会 ・丸山子ども会 ・地域ボランティア ・法政大学SIC ・防災アンバサダー ・消防署(西町田出張所) ・消防団第5分団 ・防災安全部防災課		
協力	・相原中央公園 ・長福寺 ・近隣の皆様 ・堺地域小学校		
内容	○防災ゲーム ①防災カードゲームなますの学校(法政大学SIC) ④クイズラリー(法政大学SIC) ②もしもの時！防災リュックゲーム(地域ボランティア) ③バケツリレー(地域ボランティア) ○防災工作 ⑤ペットボトルランタン(防災アンバサダー) ⑦新聞紙スリッパ(地域ボランティア) ⑥牛乳パックホイッスル(職員) ○防災体験 ⑧命を救う！心肺蘇生体験(AED)(防災アンバサダー＆消防団) ⑨だっこおんぶで避難体験※1(防災アンバサダー) ⑫起震車体験(防災安全部防災課) ⑩初期消火体験(西出張所＆消防団) ⑬煙ハウス体験(西出張所＆消防団) ⑪警笛体験※2(職員) ○その他 ⑭アルファ化米試食(五目)(堺おやじ会) ⑯能登関連ブース(法政大学SIC) ⑮防災マップ掲示(職員) ⑰消防車と記念撮影(西出張所＆消防団) ※1・・・ベビーウェアリングコンシェルジュによる抱っこ紐おんぶ紐のレクチャー ※2・・・車に閉じ込められた時を想定した、車両のクラクションを鳴らす体験		
工夫・留意点	・“身に付ける”より前の“知る”機会作り 防災で大事なものは、日常的に繰り返す訓練。子どもセンターでも避難訓練は行われている。今回のイベントで大事にしたことは“体験”と“学び”。防災に関する体験を通して“知る”ことが、個人の防災意識を高め、結果として地域の防災力を高めることにつながると考えた。 ・地域のつながり 子どもセンターは災害時のこどもの居場所として、地域住民等との協働が期待されている。そのため、子どもセンターだけで実施するのではなく、地域の人材を巻き込んでの実施を目指した。その結果、計51名もの人に協力いただくことができた。 ・子どもが“楽しい”と思える防災体験を 防災に関するイベントは、“大人”を対象としていることが多い。実際に町田市の防災アンバサダーからも「子どもが楽しめる防災イベントが少ない。真面目な話になりがちだから、子どもが飽きてしまう」という話があった。子どもセンターで行う防災イベントは、「楽しい」の中に、大切な「学び」があるように関係者と一緒に工夫を重ねた。		
当日の様子	気持ちよく晴れた1日 午前11時、駐車場では警笛体験に並ぶ親子、1階ホールには五目御飯の良においが流れてくる。準備を終えたブースがスタートし、来館者は思い思いにブースを回り始めた。 「もしもの時!防災リュックゲーム」では、保護者から「他に何を入れるべきか」の質問が多くあった。 「ペットボトルランタン」では、出来上がったランタンを見て「宝物!」と言う子もいた。 「だっこおんぶで避難体験」では、男性が赤ちゃんの人形を兵児帯で抱っこし「気疲れがすごい」と話していた。小さい子と暮らすイメージができることで、避難生活の大変さがよりリアルに伝わった。 「消防車と記念撮影」では、実際に無線機も使わせてもらい、本物の消防士になった気分を味わうことができた。 「バケツリレー」の放送が流れると、ところどころから「始まるから行こー」と楽しみにしている親子の姿。実際にバケツリレーを体験し、消防団の方からアドバイスをもらう貴重な機会となった。 「アルファ化米試食」では、「思っていたよりおいしい!」とおかわりをする人や大盛を頼む人もいた。 「能登関連ブース」では、法政大SICからダンボールベッドやダンボールトイレなどを設置。実際に寝てみて親子で「避難所ではこういうので寝るんだよ」「わりと寝やすいね」などの会話がされていた。 他にも沢山のブースが出されていた。様々な体験と学びが、多くのボランティア・関係団体によって提供され、子どもたちに直結する防災体験フェスタとなった。		

取組の効果	・子どもから大人までが一緒に参加できるイベントに 定員制のプログラムでは、ある程度年齢を区切り、対象年齢に合った内容で、防災について深く伝えることを目的としていた。今回、“どなたでも”参加できるイベントにすることで、幼児から大人まで、それぞれが新たな“体験”や“学び”を得ることができた。家族で参加できることで、家族で防災について考えるきっかけとなり、防災に関する家族ルールを確認する姿が見られた。 ・親子(友人)での会話のキッカケに 警笛体験では、車のハンドルに座ってクラクションを鳴らす幼児と、それを見ながら「間違えてお母さんが“(子ども)”を閉じ込めていなくなっちゃった時に、こうやって鳴らすのよ」と親子で確認をしながら取り組んでいた。他のブースでも「防災リュックには何が必要か」、「避難所ってどんなところだろう」など、親子や友達同士で防災に関する会話が行われており、まずは身近な人同士で防災への意識が高まった。 ・“漠然と”が“明確”に 「バケツリレー」ってただバケツを運ぶだけではない。交互に縦持ち横持ちの人が並び、バケツに入れる水の量も6割程度が良い。震度5ってすごい揺れ。だけど、こんなにも揺れるものだとは知らなかった。煙に巻かれたら周りが見えない。だけど、出口の光も見えづらくなるなんて。 知らなかったことを知る機会であると同時に、漠然と知っていた知識が、体験を通して明確な知識となった。まさに、“身に付ける”より前の“知る”機会となった。
参加者・関係者・職員からの感想	・普段やらせてあげられないから、やらせてあげられる機会があってよかった（警笛体験）（参加者） ・新聞紙スリッパがあると無いでは、足裏の感触に差を感じた（新聞紙スリッパ）（参加者） ・アルファ化米が想像よりもおいしかった（参加者） ・おうちでも作ってみよう（牛乳パックホイッスル）（参加者） ・家に新聞紙がないから、準備しておこう（新聞紙スリッパ）（参加者） ・個人的には防災について様々な学びが得られる非常に有意義で楽しいイベントでした。第一回目かつ祝日ということで来場者数が予想を下回ったとの事でしたが、どの来場者さんもみんな楽しそうにしていって良かったと思います（関係者） ・当日主に入口付近にいたところ、親子で来場される方を多く目にした一方、小学校高学年や中高生のイベント参加が少なかったように感じました。もしもの時に共助の要となる中高生にこそ体験していただきたいイベントブースも幾つかあったので、次回以降より多くの中高生が参加してくれることを願っております（関係者） ・防災は中々興味を持ってもらいづらいですがこのようなイベントにより、防災をもっと身近に、そして楽しく学べるとても良い活動だと思います（関係者） ・参加された保護者の方から「他に何を入れるべきか」等の防災に関する質問をいただくことが何度かあったことが印象的です。防災リュックについて知っている方も知らない方も、真剣に取り組まれており、防災に関する意識が向上されたのではないかと感じました（関係者） ・来場者数は想定に満たなかったかもしれませんが、まずは、第一歩を踏み出してみた、ということはとても意義のあることだと思います。防災意識の高まりという世の中の流れに乗って、さらなる工夫を凝らして地域社会に貢献していられることを望んでおります（関係者） ・市民の方から、イベント自体をみんな知らなかったって声が多かった知っていても中身がどのようなか想像できていなかった？（職員） ・体験している人だけでなく、他のコーナーからも見える位置だったので、「地震が来るとどうなるか」を周知できたと思う（起震車体験）（職員） ・自分を含めて、「初めて鳴らします！」という人が多く、手軽でありながら新鮮な体験だったので、良かった（警笛体験）（職員） ・防災に関しては、やはり地域との協働が不可欠。今後も継続していきつつ、地域といかにつながっていくかをしっかりと考えていきたい（職員）
次年度に向けて	・子どもの参画 町田市が推進している子どもの参画において、防災に関する参画についても検討をしていく必要がある。実際に能登半島地震では、避難所にいる子どもたちが自分たちにできることを考え、健康体操の掲示や掃除・整理整頓など、自ら考え活動が行われていたと聞く。もし、避難所生活をするようになったら、地域の主体のひとりとしてなにができるかを考える機会と同時に、大人が子どもを地域の主体のひとりとして認識する機会とする。 ・地域との協働 児童館ガイドラインでは、災害時のこどもの居場所として「復興に向けた時期に応じた取組が考えられ、特にこどもの居場所・遊び場として機能しつづけるよう、地域住民等との協働が期待される」と記されている。また、公設として子どもセンターは、大規模災害後の動きとして、震災後最大14日目までに必要最小限の体制で開館することが求められている。これは、子どもやその保護者を含め、災害によるストレスの緩和、不安解消など心のケアを目的としている。災害時に地域との協働を行うためにも、平常時からの防災に関する協働をより強固にしていきたい。 ・参加を促す広報活動と実施日について 地域の方からも、イベントを知らなかったという声が聞こえた。防災は子どもだけや大人だけが知っていればいいというのではなく、地域全体で取り組む必要があるため、子どもに向けての広報と同時に、地域の大人にも情報を届ける必要があった。 実施日について、来場しやすいよう祝日での実施を行ったが、本来休館日である火曜日が祝日に当たったため、休館日だと思っていたという声もあった。上記広報にもつながることだが、わかりやすい日に向けた開催が必要。また、周年行事規模のイベントであることを踏まえ、周年行事の一つとして実施することも検討したい。



命を救う！
心肺蘇生体験



防災カードゲーム
なまずの学校



バケツリレー



もしもの時！
防災リュックゲーム



だっこおんぶで
避難体験



アルファ化米試食



避難所グッズ体験



能登関連ブース



防災工作コーナー



煙体験ハウス



警笛体験



起震車体験